

2022年度 鹿児島大学 奄美群島島めぐり講演会

住み慣れた土地にも、案外と知らないことがあるものです。時には島の自然や環境についての講演を聞いてみると、ふるさを見直す機会になるかと思えます。鹿児島大学は、奄美群島の生物の多様性などを研究し教育に生かすプロジェクトを進めています。その中でわかってきたことを中心に、群島の皆様に紹介する講演会を開くことになりました。多くの方のご参加をお願いいたします。

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

Google フォームからの申し込み

共催 奄美群島広域事務組合 後援：各町

参加費不要

**参加方法：定員までは申し込まなくても参加できますが、
定員超過の場合には事前申し込みの方を優先します。**



問い合わせ・申し込み先：

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター（担当 西）

<Tel> 099-285-7394

<メール> shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp

<https://forms.gle/w3djJq8bED8ZU3Q56>

資料の準備の都合などもありますので、なるべく事前にお申し込みください。なおリモート視聴はできません。

第19回 与論島（与論町役場1階 多目的ホール 20名まで）

2022年11月26日（土）午後4時～6時半

「奄美で在来カンキツについて考える」 山本雅史（農学部）

与論島のキンカンやイシカタのように奄美群島では固有の在来果樹遺伝資源が生育し、栽培されています。これらの多くは亜熱帯性気候に適しており、南西諸島以外ではあまり見ることのないものです。これらの果樹について紹介するとともに、その保存やそれらを利用した島の活性化についても考えたいと思います。

「島嶼の豊かな自然環境をドローンで見よう ～スマート農業への利用～」 平 瑞樹（農学部）

ドローン空撮からの映像を景色として捉え、スマートフォンやタブレットなどに映し出される画像を鳥瞰映像として誰でも楽しむことができるようになりました。さらに、インターネットの動画にも利用される空撮映像がなくてはならないIoT ツールとして普及しています。一方、航空法の改正で機体の登録制が開始され、免許制の導入も検討されています。これからも高機能なドローンが出てくることから、美しい島嶼の景観の発信、基幹産業である農業への利用の他、有効な利用方法について皆さんと一緒に考えてみましょう！

第20回 徳之島（徳之島町井之川223-2 未来創りラボ井之川 30名まで）

2022年12月24日（土）午後1時半～4時

「島のさとうきびと砂糖の話」 坂井教郎（農学部）

さとうきびは島にとって、とても大事な作物です。しかし難しい問題も抱えています。そのひとつには、砂糖の消費や貿易の問題が関係しています。講演では、さとうきびの現状やそれを守る仕組み、島における役割などを踏まえて、島のさとうきびの将来を、（できれば）皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

「アミノクロウサギによる農作物被害をどう防ぐ？」 高山耕二（農学部）

徳之島で農作物に被害を与える野生動物は？と聞かれて、皆さんの頭にまず浮かぶのは・・・リュウキュウイノシシでしょうか？最近では、アミノクロウサギによる農作物被害が増えているのをご存知ですか？『農業で生計を立てる生産者』と『そこに住むアミノクロウサギ』、どちらもとても大事です。わたしたちは、農地の周囲に電気柵や金網柵を設置することで、ヒトとアミノクロウサギの“棲み分け”を図り、そして共に暮らしていくかたちを提案します。

第21回 奄美大島龍郷町 (龍郷町役場 30名まで)

2023年1月21日(土) 午後1時半～3時

「魚は島の宝：生産者と飲食店・宿泊施設の連携を考える」 鳥居享司 (水産学部)

奄美大島では、漁業や流通などの水産業、地元産の魚介類を提供する飲食店は、基幹産業のひとつです。2021年の世界自然遺産登録により、国内はもとより海外からも奄美大島は注目されています。コロナ禍が落ち着いた後、数多くの観光客の来島が期待されており、奄美の水産業や飲食店の飛躍に結びつけたいものです。その一方で、島外からの資本の進出、島外産食品の浸透などによって、観光客が落とす「お金」が島外へ流出する現象もみられます。奄美の産業振興を実現するためには、観光による経済効果を奄美群島に残すことが大切です。そのひとつが食材の域内調達率の改善という方法です。いわゆる食材の「域内生産・域内消費」の促進を通じて、生産者はもとより、流通業者、飲食・宿泊業者に経済的恩恵を蓄積するというものです。観光客も特色ある奄美の水産物を食べれば、その一部はきっとリピートになってくれるのではないのでしょうか。ただ、地元の水産物利用はなかなか簡単ではないようです。島外からの水産物に比べて、割高、供給が不安定、望む納品形態がない等々。果たして、打開策はあるのでしょうか。

第22回 喜界島 (喜界町役場コミュニティセンター多目的室 150名まで)

2023年2月11日(土) 午後1時半～4時

「奄美群島の戦争遺跡を訪ねる」 石田 智子 (法文学部)

鹿児島県はアジア太平洋戦争末期に本土防衛の最前線として各種の軍事施設が数多く構築された場所であり、特に奄美群島には多数の戦争遺跡が非常に良好な状態で残っています。戦争遺跡は当時の状況を物語る重要な実物資料であり、調査研究や保護、平和教育や観光における活用が各地域で進められています。地域の文化遺産として戦争遺跡に新たな価値を見出し、記憶や記録を未来につなげる取り組みについてお話しします。

「地域資源を活かした喜界島の景観づくりを考える」 平 瑞樹 (農学部)

島嶼域では、農業用水の確保が重要な課題である。気象条件、地質・地盤、地形条件に左右される農業用水の安定的供給が農業生産に欠かすことができない。昨今、地球温暖化の影響で大型化する台風の通路となっているものの、島内に雨が降らず干ばつに悩まされる年も多い。今年度から第二地下ダム建設も始まり新たな農業生産への期待も高まっている。琉球石灰岩が隆起してできた喜界島と美しい自然と基幹産業である農業の持続的発展が島の景観を形成することから、島の地域資源を有効に活用した景観づくりについて考えてみましょう！

第23回 沖永良部島知名町 (知名町中央公民館 30名まで)

2023年2月18日(土) 午後1時半～4時

「海藻の上に住む小さな動物たち」 小玉将史 (水産学部)

海を泳いでいると、しばしば海藻が目につくと思います。目を凝らして海藻をよく見てみると、その上には小さな甲殻類や巻貝類など様々な動物たちが暮らしていることに気がきます。それも一匹や二匹ではなく、多い時には一掴みの海藻の中から数百～数千匹の動物が見つかります。彼らは海藻類などを食べて魚類などに食べられることによって海洋生態系を支えています。本講演では、これらの葉上動物の重要さや魅力をご紹介します。

「ちょっと怖いのが実は面白い寄生虫の話：奄美群島の寄生虫たち」 上野大輔 (理学部)

奄美群島が生物の宝庫であることは、多くの人々が既に知っていることでしょう。そのように沢山の貴重な生き物が暮らす奄美群島は、実は寄生虫の宝庫でもあります。こう言われて、多くの人々はあまり良い顔をしないかもしれませんが、中にはとても珍しい寄生虫、希少な寄生虫、そしてユニークな寄生虫もいるのです。今日は、寄生虫って実はとても面白い生きものなんだというお話を、奄美群島の海や川に暮らす寄生虫たちの簡単な紹介とともにお伝えします。